長崎県立五島高等学校　　第２号　令和２年　５月２５日 発行

あこう風のたより

5月

発行責任者
校　長　初村　一郎

【校長室より】

『前を向く』

新型コロナウイルスの影響で先行き不透明な状況が続き、学校での教育活動は、これまでに経験したことがない事態となっています。生徒諸君もやり場のないストレスを感じながら毎日を送っているものと察します。

こうした中、先月末にインターハイの中止、そして今月、県高総体の中止が決定しました。大会出場に向けて努力を重ねてきた運動部の生徒たちにとっては、集大成の舞台を奪われたあまりにも酷すぎる事態となりました。その背景には、競技中だけでなく移動や宿泊による感染リスク、終息の長期化、練習不足による怪我や事故への懸念と対応する医療機関の困窮等、様々な要因が考えられます。ただし、その判断は、何よりも生徒たちの健康・安全、命を守ることを最優先に、断腸の思いで下した苦渋の決断だったと思います。「やればよかった」のフォローはできても、「やらなければよかった」の取り返しはきかないことを真摯に受け止めなければならないと考えます。

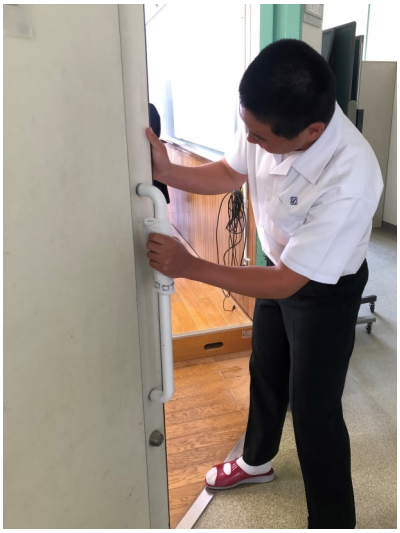
生徒たちのショックは計り知れないものがありますが、懸命に納得しようとする生徒たちに我々大人がしてやれることを今は探していくしかありません。決して夢を奪うことではなく、この経験があったからこそ成長できた、強くなれたと将来思えるよう、前を向いて進んでいくしかないことをまずは伝えたいと思います。長い人生の中で、このような経験は財産になります。再び苦難が訪れたときに乗り越えるヒントとなり、きっとエネルギーになるはずです。

落ち込んだりふさぎ込んだりするのではなく、これまでに積み重ねてきた努力は無駄にはならないと誇ってほしい。そして、気持ちを切り替えて、できないことを考えるのではなく、今できることに集中してほしい。何もかもが奪われたわけではないことに気づいてほしい。当たり前となっていた日常に改めて感謝の気持ちを持ってほしい。スポーツができるのは周りの支えがあるからこそ、その日常に対して感謝することが自身の成長につながるし、当たり前でないからこそ、全力で今を大切にしてほしい。職員一同、ご家庭と一緒になって生徒たちを励まし、どういう形であれ区切りの場を模索して、気持ちを奮い立たせてあげられたらと考えております。

また、臨時休業が長期に及んだことで、学びの保障や進路指導についても課題となっています。特に、大学入試は新たな制度が始まる年ですが、３年生は昨年末から英語民間試験活用や記述式導入の騒動にも振り回されており気の毒でなりません。文科省としては、総合型選抜・学校推薦型選抜・大学入学共通テスト・一般入試それぞれに配慮が必要であり、特定の受験生が不利益を被らないよう当初の計画にとらわれずに対応していきたいとの見解を示しています。日々刻々と情勢が動く中、情報の収集と見極めをしっかりと行い、生徒・保護者の皆さんに必要な情報を提供していくとともに、五高としての最善の方策を検討していきますので、引き続きご協力をお願いします。

今こそ、前例のない状況に正面から向き合い対応していく底力が試されています。やまない雨はありません。苦しみの先の明るい未来を切り開いていけるかいけないかは自分次第です。変えられない現実を嘆くのではなく、前を向くしかないことを職員も生徒も一丸となって自覚し、次の目標に向かって歩みを進めていきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症に関して【保健室より】



長かった臨時休校が終わり、あらためて新学年がスタートしました。今年に入ってから続く新型コロナウイルス感染症の流行による様々な制約はありますが、島内での感染発生がないことから、五島では５月１１日から学校を全面再開できることになりました。

新型コロナウイルスは、いまだに分からない事が多い感染症です。みなさんの中にも、新型コロナウイルス感染症に対して不安や恐怖を持っている人も多くいると思います。正しく恐れ、予防策を徹底できれば、それは感染予防・感染拡大防止につながります。しかし、過度な不安や恐れは「差別」につながってしまうことを、みなさんもテレビなどを見ていて感じることはありませんか？そしてその「差別」が、実は感染拡大につながっていることに気づいているでしょうか？

もしも新型コロナウイルス感染症に罹ってしまったら・・・。不安になるのは、病気自体の怖さ・症状の辛さよりも、周囲からどんな風に見られるかではありませんか？私自身も、もし五島で一番目の感染者になってしまったらどうしようと考えてしまいます。それは、未知の感染症よりも、周囲からの「差別」を恐れているからです。

周りからどう思われるかということに囚われていると、体調が悪くなったり、新型コロナウイルス感染症が疑われる症状があったりした時にも、なんて言われるかわからないからと、病院に行かないで悪化させてしまう恐れがあります。もし本当に新型コロナウイルス感染症だった場合、多くの人に感染させてしまう恐れもあるのです。

テレビやインターネット上では、新型コロナウイルス感染症に罹った人への誹謗中傷や風評被害が見受けられます。無責任な行動をする人への怒りは、日々の生活の中で様々なことを我慢している人だからこそ湧いてくるものだと思います。けれどもその怒りが「差別」を生み、「差別」への恐怖が感染拡大につながるとしたら、毎日色々なことを我慢して生活している人達の不利益につながります。

新型コロナウイルス感染症に関する「差別」を防ぐためには、「思いやりの心」が重要ではないでしょうか。色々な制約がある中でも、みんなが思いやりの心を持っていれば、差別も、差別への恐怖も和らぎ、それが感染拡大防止につながるのではないかと思います。

五島高校でも、みなさんに色々な我慢をしてもらっています。休校中は、寮生は感染拡大を防ぐために、帰省せずに寮で過ごしてもらいました。学校が再開してからは、毎日体温測定をしてもらい、肌寒いと感じる中でも換気をして授業を受けてもらっていますし、必要最小限のグループワークなど、授業方法も制限されています。掃除の手間も増えましたし、なにより、高総体等の多くの行事が中止となってしまいました。なんとか毎日学校で授業ができるのも、みなさんがそれぞれに何かしら我慢をしてくれているからです。この我慢を仕方ないと思えるのは、みなさんの中に他者を思いやる気持ちがあるからだと思います。

新型コロナウイルス感染症には、まだ確立した治療法もワクチンもありません。いつまで続くか分からない不安の中で、これ以上の感染拡大を防ぐためには、みんなが人を思いやる気持ちを持って行動していくことが重要です。今は思いやりの心こそがワクチンです。みんなで乗り越えていきましょう。